

聖書箇所：マルコ14：43～65

タイトル：十字架への道

テーマ：イエスキリストの苦難の道が人類にとって祝福の道になるなどと、一体誰が想像しただろうか。イエスを十字架に追いやる人の罪と、それにもかかわらず自発的な意志を持って十字架への道を歩まれたイエス。人の罪と神の愛が交差した十字架の意味を受難週にあたって考えてみたい。

1. 初めに：

まず、イエスを十字架刑に追いやった人々と彼らの何がそうさせたのかを具体的に見る、次に、イエスキリストにとっての十字架への道、という2つの観点から考え、最後に結論と適用を考えていく。

2. イエスを十字架に追いやった人々、彼らの何がそうさせたのか。

①イスカリオテのユダ（マルコ14：42～46、マタイ26：47～50、ルカ22：47～48、ヨハネ18：2，5）

*彼の問題—イエスに対する失望とその結果の不信仰、裏切りへ。盗み。

②大祭司カヤパ（ヨハネ18：12，13，19）

*大祭司—イエスの時代、大祭司はローマの総督により任命された。親ローマで支配者側に立っていた。

*彼らの問題—彼らは神殿に仕えながら自分の欲に仕えていた。

③パリサイ人（ヨハネ18：3）律法学者（マルコ14：13、ルカ22：66）、民の長老たち（マルコ14：53～55、マタイ26：3，57，27：1、ルカ22：52）

*彼らの問題—偽善（知識を持ちながら実行しない）、イエスに対するねたみ、高ぶり、愚かさ。

④ヘロデ・アンティパス（ルカ23：6～12）

*彼の問題—ただの俗人、自分の欲望のおもむくままに生きたい。罪を指摘する人は大嫌い、自己チューの塊（悪い考え、好色、姦淫、よこしま、欺き、不品行など悪のオンパレード）

⑤ポンテオ・ピラト（マルコ15：1～15）

*彼の問題—自己保身のために自分の良心に背く判断を下した。不誠実、よこしま。

⑥ローマの兵士たち（マルコ15：16～24）

*彼らの問題—彼らの関心は死刑囚の持ち物を分け合い、良い物を手に入れること。この世の欲が最優先、貪欲。

⑧群衆たち（マルコ15：29～30）

*彼らの問題—自分の頭で考えず、付和雷同する。愚かさ。

⑨そして、私たち

*私たちはイエスの十字架に責任はないのか。

*イエスが、「人から出るもの、これが人を汚す」(マルコ7:20)と言われたが、

「悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、食欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさ」のリストに当てはまらない人がいるだろうか。それ以前に私たちは神を知らず自分勝手な道を歩んでいたではないか。その結果の具体的な罪。

イエスを十字架に追いやったのは、私たちの罪です。

3. イエスキリストにとっての十字架への道

*イエスキリストの生涯はまさに十字架への道であった。

*自発的に。

・「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。」(ヨハネ10:11)

・「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。」(ヨハネ10:18b)

*迫害し、ののしり、敵対する者のために。

*イエスの愛

4. 結論と適用

*十字架は神の愛の究極の表現であり、一方で人間の罪の集積場。

*同志社大学の創立者、新島襄のエピソード

受難週は、特にイエスの十字架の愛を覚えるときであります。イエスの愛を私たちの生涯の間、一時たりとも忘れてはならないのです。